

ようこそ有田へ

有田町は、日本における磁器発祥の地である。400年以上の歴史を持つ有田焼は今でも重要な伝統工芸となっている。100を超える窯元で作られており、そこで働く職人たちは、受け継いできたデザインを大切に守りながらも、現代の市場に合わせて製品を常に変え続けている。

JR 有田駅から歩いてすぐの所にあるキルンアリタは、観光の様々な要望に応える総合情報センターである。九州陶磁文化館、有田陶磁美術館、有田町歴史民俗資料館など、有田焼について詳しく知ることのできる場所をスタッフが紹介してくれる。また、深川（ふかがわ）製磁や源右衛門（げんえもん）、今右衛門（いまえもん）、柿右衛門（かきえもん）、香蘭社（こうらんしゃ）などの大手窯元には美術館を併設しているところもある。多くの窯元で行われているツアーや体験教室の予約もキルンアリタのスタッフがサポートしてくれる。有田焼は、窯元や、卸団地を改装して作られた22の店舗が入る「アリタセラ」で購入することができる。

JR 有田駅東側には内山（うちやま）歴史地区がある。1630年代後半に作られたこの一帯は、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。有田の大手窯元や卸の多くがこの地区に拠点を置いているほか、歴史的建造物を改装したカフェやギャラリーや新しいショップが立ち並んでいる。大通りの北側に平行して走る細い通りでは、古い窯から出た廃レンガで作ったトンバイ塀を見ることができる。

有田の町は溪谷に寄り添うように広がっており、周囲を森に囲まれている。平らな土地が少なかったため、人々は棚田を作った。その一例が町の北西部にある景色の美しい岳の棚田（たけのたなだ）である。岳の棚田ウォーキングマップには、訪れるからには見逃せないお勧めの散策コースや撮影スポットが掲載されている。町の北側にある山間部には、清流で知られる深い溪谷・竜門峡（りゅうもんきょう）がある。竜門峡の南には、夏の暑さを逃れられる場所として人気の有田ダムがあり、紅葉や春の花々が水面に映る様子を楽しむことができる。